

基本目標別達成状況総括表

「ひとの創生」

基本目標

○転出超過数

250人(H26)→251人(H27)→174人(H28)→125人(H31)

※資料：広島県市区町村別人口及び世帯数(年報) 期間は各年10月1日～翌年9月30日

基本目標に対する総合評価

○基本目標である転出超過数については、平成28年数値は174人となっており、前年度と比較して77人の減となっている。

○詳細については別紙参照。

○転出超過数の減少状況については、様々な要因が考えられるため、今後の推移にも注目していく必要がある。

○そのため、引き続き現在の取組を進めつつ、戦略の方向性や事業実施内容について点検を行い、転出超過数の更なる減少につなげていきたい。

①結婚、妊娠、子育てに関する切れ目のない支援

評価(KPIの達成度、今後の対策など)

(KPI)	H26	H27	現在値	H31
支援ニーズの高い妊産婦への支援実施の割合	-	-	100%	100%
ファミリーサポートセンター登録会員数	316人	338人	361人	420人
病児・病後児保育室の受入定員	2名	2名	2名(8/1現在4名)	4名以上

※現在値はH29.3.31現在

- 現在全ての妊婦に訪問、面接、電話等で5回の計画的かつ細やかな支援を実施している。支援ニーズの高い妊産婦に対しては支援回数の増加などの支援強化に努める。 今後も、妊娠、出産、子育ての切れ目のない細やかな支援を行い、市民が安心して子どもを生み育てられる環境を醸成する。
- ファミリーサポートセンター登録会員数については、保護者の集まる場等で事業内容の周知を図り、対前年度と比較して23名増加した。利用件数も年々増加しており、事業の周知が進み、利用者ニーズも捉えることができていと考えている。 今後も、地域における育児の相互援助活動を推進するため、会員数の増加に向け、広報・ホームページ、子育て世代や地域の方が集まる場において制度説明を行うなど、更なる事業内容の周知を図る。
- 病児・病後児保育室の受入定員については、平成29年度の病児保育の開始に向け、関係者との協議とともに施設整備を行い、平成29年5月23日に病児保育室を開設。 今後は、保育所等を通じ、保護者への感染症流行状況や予防策等の情報提供に合わせて事業の周知を図り、保護者の子育てと就労の両立支援を推進する。

②学校教育の充実

評価(KPIの達成度、今後の対策など)

(KPI)		H26	H27	現在値	H31
学力が定着している児童生徒の割合(小学校) 全国学力・学習状況調査	国語A	75.6(-0.4)	75.8(+2.0)	82.4(+4.0)	県平均 3%以上
	国語B	55.7(-4.5)	70.9(+1.2)	62.0(+1.5)	
	算数A	81.6(+1.1)	80.4(+2.7)	79.4(-0.3)	
(中学校) 全国学力・学習状況調査 「基礎・基本」定着状況調査	国語A	78.0(-2.6)	76.3(-0.2)	76.4(-0.2)	県平均 2%以上
	国語B	49.3(-3.1)	67.5(+0.5)	63.4(-4.5)	
	数学A	66.1(-3.4)	63.8(-0.8)	58.8(-3.3)	
英語検定3級取得の中学生の割合	数学B	58.6(-3.1)	39.4(-3.3)	40.8(-4.0)	24%
	英語	68.4(+0.3)	66.1(-2.1)	64.7(-4.9)	
「基礎・基本」定着状況調査の情意面アンケート「自分の住んでいる地域のことが好きか？」	小学校	88.5	88.0	92.4	90.0
	中学校	77.1	86.2	90.3	90.0

※現在値はH29.3.31現在

- 学力が定着している児童生徒の割合については、小学校においては、授業改善の推進や家庭学習の充実等の取組の成果が現れている。中学校においては、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題では県平均との差が縮まってきているが、知識・技能を活用する問題では県平均との差が広がっており、学習内容を生活場面に結びつけるなど、知識・技能を活用する力を身に付けさせることを意識した授業改善に組織的に取り組む必要がある。 今後は、小学校と中学校との連携を充実させ、9年間で計画的に児童生徒の学力向上を図っていく。
- 英語検定3級取得の中学生の割合については、徐々に増加している状況である。平成29年度は、イングリッシュキャンプや竹原英語チャレンジといった取組を通して児童生徒の英語に対する興味関心を高めるとともに、英語によるコミュニケーション力の向上を進め、取得割合の向上を図る。
- 「自分の住んでいる地域のことが好き」と回答する児童生徒の割合については、目標値を達成することができた。中学校においては、キャリアスタートウィーク事業等の取組により、生徒の郷土愛の育成は進んでいると捉えている。 今後も、地域資源をさらに開発し、キャリアスタートウィーク事業とともに、道德の時間や総合的な学習の時間等においても竹原のよさを感じ取ることができる取組を進めていく。

③観光の振興

評価(KPIの達成度、今後の対策など)

(KPI)	H26	H27	現在値	H31
入込観光客数	893千人	1,018千人	972千人	900千人
町並み保存地区を訪れる外国人観光客数	243人	261人	370人	500人
観光消費額	2,663百万円	2,730百万円	3,039百万円	2,800百万円

※現在値はH28.12.31現在

- 入込観光客数については、平成27年度から平成28年度にかけて大久野島の入込観光客数が増加している一方、町並み保存地区の入込観光客数は減少し、全体では46千人の減少となっている。減少の主な要因としては、NHK連続テレビ小説「マッサン」やアニメ「たまゆら」の影響のあるコンテンツが終了したことなどが考えられる。
- このような中で、さらに来訪される観光客の利便性を向上させることを目的として、観光ポータルサイトのリニューアル及び多言語化、観光プロモーションビデオ、ガイドブック及びポスターの作成など、情報発信力を強化した。
- 町並み保存地区を訪れる外国人観光客数及び観光消費額については増加している。
- 今後も、引き続き情報発信を継続して行い、外国人観光客等の受入体制整備を図ることにより、更なる観光客及び観光消費額の増加を図っていく。

④情報発信力の強化

評価(KPIの達成度、今後の対策など)

(KPI)	H26	H27	現在値	H31
報道件数	55件	61件	68件	80件
HPアクセス件数	280,427件	342,041件	250,121件	300,000件
フェイスブック「いいね」件数	1,251件	1,679件	1,957件	1,800件
ツイッター「フォローワー」数	2,885件	3,495件	4,165件	4,200件

※現在値はH29.3.31現在

- 報道件数については、主にイベントや市の新規事業に対するものを実施しており、引き続きイベントや観光情報について多く報道されるよう積極的な情報発信に努める。
- HPアクセス件数については、平成27年度と比べて減少している。NHK連続テレビ小説「マッサン」やアニメ「たまゆら」をきっかけとして竹原市HPへのアクセスが増加していたが、終了に伴いHPへのアクセス数が減少したことが要因と考えられる。 今後は多くの人に竹原市への関心を持ってもらうよう、フェイスブックやツイッター、インスタグラム、各種イベントにおける情報発信の場を活用し、竹原市の情報を市内外へ発信していく。
- フェイスブック「いいね」件数及びツイッター「フォローワー」数については増加しているが、目標に向けて今後も観光やイベントに関する情報等について発信していく。

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 柱 ひとの創生 ①結婚、妊娠、子育てに関する切れ目のない支援

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
第3子以降3歳以上児保育料軽減事業	H28	安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、扶養する子(満18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある者)が3人以上いる世帯の「第3子以降の3歳以上児」に係る保育料から2,500円を減額する。(平成27年度からの独自施策)	【H27実績/H28実績(H27実績との差)】 (H27開始) ○対象者 74人/52人(△22人) ○影響額 2,163,900円/1,484,100円(△679,800円)	【目的】 安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、子育てをする多子世帯の保護者の経済的負担を軽減する。 【目標数値】	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実					0	—	【担当課意見】 国の保育料負担軽減の取組とともに、市独自の軽減措置を行うことにより、保護者の経済的負担の軽減につながっている。 【今後の見通し】 平成29年度における幼児教育の段階的無償化の取組とともに、引き続き実施する。
第3子以降3歳未満児保育料無償化事業	H28	安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、扶養する子(満18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある者)が3人以上いる世帯の「第3子以降の3歳未満児」に係る保育料を無料とする。(平成22年度からの独自施策)	【H26実績/H27実績(H26実績との差)】 (H27開始) ○対象者 62人/46人(△16人)/36人(△10人) ○影響額 15,088,000円/11,619,250円(△3,468,750円)/12,440,820円(821,570円)	【目的】 安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、子育てをする多子世帯の保護者の経済的負担を軽減する。 【目標数値】	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実					0	—	【担当課意見】 国の保育料負担軽減の取組とともに、市独自の軽減措置を行うことにより、保護者の経済的負担の軽減につながっている。 【今後の見通し】 平成29年度における幼児教育の段階的無償化の取組とともに、引き続き実施する。
放課後児童クラブ事業	H28	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を提供し児童の健全な育成を図る。 【対象児童】 小学校6年生まで 【実施箇所】 市内9校のうち8校区(7箇所)で実施。(直営5箇所、委託2箇所) 【定員】275人 【開設時間】 平日14:00~18:00、学校休業日8:00~18:00(日、祝、お盆、年末年始を除く) 【保護者負担金】児童一人当たり月額3,000円	利用児童数の増加に伴い竹原西放課後児童クラブ及び吉名放課後児童クラブにおいて2教室体制で受入れを行い、市内7箇所9教室で放課後児童健全育成事業を実施した。また、支援員の資質の向上のため、支援員研修会を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)】 (H27開始) ○利用者数 177人/209人(+33人)/243人(+34人)	【目標】 保護者の就労支援と児童の健全育成を図るため、放課後児童健全育成事業を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 利用者数178人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	74,181,987	20,347,000	20,347,000	7,689,000	25,798,987	○	【担当課意見】 利用希望者の増加した地域においても、関係者と調整し受入環境を整備できたため、保護者の子育て・就労支援につながっている。 【今後の見通し】 継続して取り組むとともに、吉名小中一貫校開校に合わせ児童クラブの新設及び利用児童の増加に対応した取組を行う。
地域子育て支援拠点事業	H28	子育て中の親の孤独感や不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援するため、乳幼児とその保護者が気軽に集うことができる場を提供し、子育てについての相談・援助・関連情報の提供、子育てに関する講習等を行う。	【H26実績/H27実績(H26実績との差)】 (H27開始) ○延べ利用者数 19,119人/20,793人(+1,674人) /17,893人(△2,900人) ○うち子どもの利用者数(月間) 853人/934人(+81人)/800人(△134人)	【目標】 子育ての悩みや不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援するため、子育て親子の交流を促進する。 【目標数値】(H31年度までに) 月間利用者数(子ども)1,250人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	22,671,000	7,557,000	7,557,000		7,557,000	○	【担当課意見】 子育ての悩みや不安感を緩和する事業を継続して実施することにより、子どもの健やかな育ちの支援につながっている。 【今後の見通し】 核家族化による子育ての孤立化等を防ぐため、引き続き、広報紙やkid'sめるまが等により子育てに関する情報発信を行い、利用促進を図る。
ファミリーサポートセンター事業	H28	子育て家庭の多様なニーズに対応するため、乳幼児や小学生の預かり等の援助を受けたい者と援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡・調整を行い、地域における育児の相互援助活動を推進する。 【対象児童】小学校6年生まで 【利用時間等】平日7:00~19:00/1時間600円 その他の曜日・時間/1時間あたり700円 ※利用料金の半額を市が助成(上限あり)	【H26実績/H27実績(H26実績との差)】 (H27開始) ○登録会員数 316人/338人(+22人)/361人(+23人) ○延べ活動件数 463件/1,589件(+1,126件)/1,707件(+118件)	【目標】 子育て家庭の多様なニーズに応えるため、登録会員の拡大を図り、利用しやすい提供体制を整える。 【目標数値】(H31年度までに) 登録会員数 420人	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	3,746,688	1,066,000	1,066,000		1,614,688	○	【担当課意見】 事業内容を周知に取り組み、会員数・活動回数が増加しており、子育て支援につながっている。 【今後の見通し】 利用しやすい提供体制を確保するため、事業内容の周知を図り、会員数の拡大に努める。
一時預り事業	H28	安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図るため、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児を、認定こども園、保育所、地域子育て支援拠点等において、一時的に預かり、必要な保育を行う。	【H26実績/H27実績(H26実績との差)】 (H27開始) ○延べ利用者数 3,102人/4,006人(+904人)/3,223人(△783人)	【目標】 保護者の一時的な保育ニーズに応えるため、預かり保育を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 延べ利用者数2,904人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	5,786,000	1,928,000	1,928,000		1,930,000	○	【担当課意見】 保護者の保育ニーズに適切に対応し、安心して子育てができる環境の充実につながっている。 【今後の見通し】 事業の周知を図るとともに、保護者の保育ニーズに応じた事業の充実に努めていく。

基本目標別達成状況総括表

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
延長保育事業	H28	安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図るため、保護者の勤務条件や家庭の事情などにより、支給認定時間を超過し、引き続き保育所・認定こども園を利用する児童に対し、早朝・夕方の保育を実施する。 早朝 7:00～7:30 (3園) 夕方18:30～19:00 (全園) (保育短時間の場合は、利用時間以降)	市内すべての保育所及び認定こども園において延長保育を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】 ○実利用者数 177人/209人(+33人)/245人(+36人)	【目標】 就労と子育ての両立を支援するため、保護者のニーズを踏まえ、保育所・こども園で延長保育を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 実利用者数140人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	2,400,000	800,000	800,000		800,000	○	【担当課意見】 保育所、こども園において受け入れ体制が整っており、必要性に応じ利用可能となっている。 【今後の見通し】 子育てと就労の両立を支援するため、継続して取り組む。
病後児保育事業	H28	保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに児童の健全な育成を図るため、病気の回復期であり、集団保育が困難な児童で、保護者が勤務等の都合により家庭での保育が困難な場合に、専用施設において、看護師等が一時的に保育を行う。 【実施場所】ふれあい館ひろしま「さくらんぼ」 【対象児童】小学校6年生まで 【定員】2名 【利用料】2,000円/日(市外2,600円)、1,500円/半日(市外2,000円)	病後児保育室「さくらんぼ」で病後児の受け入れを行うとともに、病後児保育室の利用の少ない日において、保育所等へ感染症流行状況や予防策等の情報提供を行った。また、保育所の保護者を対象に冬にかかりやすい病気と感染予防についての健康講座を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】 ○延べ利用者数 236人/137人(△99人)/100人(△37人)	【目標】 保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成を図るため、病後児保育を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 利用者数162人 病児については病院等への働きかけを進める (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	4,880,059	1,607,000	1,607,000		1,666,059	○	【担当課意見】 利用希望に対してほぼ受け入れることができ、保護者の子育て・就労支援につながっている。 【今後の見通し】 保育所等への事業の周知を図るとともに感染症流行状況や予防策等の情報提供を行う。また広域利用連携を進める。
不妊治療費助成事業	H28	【概要】 特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)について、費用の一部を助成することにより、不妊治療を希望するカップルの経済的負担の軽減と、子どもを産みやすい環境を確保し、子育て支援対策の充実を図る。	ホームページの掲載、チラシを保健センター・庁内等に配架するとともに西部東保健所などの関係機関と連携し、該当者及び申請を検討している市民に対して継続的に周知し、経済的負担を軽減し、子どもを産みやすい環境づくりに取り組んだ。 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】 助成件数 実 6人/4人 延 7件/6件	【目標】 様々な媒体を用いた情報発信により、不妊治療を希望するカップルの経済的負担を軽減し、子どもを産みやすい環境を構築する。 また、不妊検査・一般不妊治療費助成事業の開始に伴い、対象者の拡大を図る。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	632,322				632,322	—	【担当課意見】 制度の周知が広がり、助成を受ける人が毎年みられている。治療費の一部を助成することで、不妊治療を受けるカップルの経済的負担の軽減と、子どもを産みやすい環境の確保につながっている。 【今後の見通し】 不妊治療を受けるカップルの経済的、精神的負担の軽減及び子どもを産みやすい環境の確保を図るため継続して実施する。
妊婦歯科健康診査事業	H28	【概要】 妊娠中からの妊婦とあかちゃんの歯の健康保持増進を図るため、妊娠中に一人1回、無料で歯科健康診査を実施し、子育て支援対策の充実を図る。 【内容】 妊娠届時を受診券を交付し、竹原市内の歯科医療機関において歯科健診を受診できる。	母子健康手帳の交付時に受診券を交付し、妊婦とあかちゃんの歯の健康の保持増進に取り組んだ。 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】 受診者数37人/38人(+1人) 妊娠届出数との受診率 30.6%/25.6% 受診者所見 要治療52%、要指導26.3%。要治療の内訳 う歯、歯周疾患。	【目標】 妊婦の歯の健康保持増進を図るため、う歯の早期発見早期治療に努める。 【目標数値】 受診者40人	健康福祉課	第3章 健やかで支えあう安心のまちづくりへの挑戦 第1節 医療の充実と健康づくりの推進	チャレンジプロジェクト3 医療提供体制(産科、小児科、救急医療等)の充実	140,600				140,600	○	【担当課意見】 受診券を交付し、受診勧奨を行ったことにより、受診率が増加し、要治療者及び要指導者は医療機関において治療、指導を受け、妊婦とあかちゃんの歯の健康の保持増進につながった。 【今後の見通し】 妊婦とあかちゃんの歯の健康増進を図るため、継続して実施する。
乳幼児等医療費助成事業	H28	乳幼児・児童の疾病の早期発見と治療を促進し、健やかな育成を図るため、医療費の助成を実施している。	県の助成制度(就学前児童に関わる入院、通院時の自己負担額の一部助成)に加えて、市独自の施策として、助成の対象を拡大し、小学6年生修了時まで入院通院時の自己負担額の一部助成を行った。 【実績】 ・受給者数:1,994人(H28.3.31時点) :1,872人(H29.3.31時点) ・支給件数:28,297件(H27年度) :26,524件(H28年度見込)	【目標】 乳幼児・児童の疾病の早期発見と治療を促進し、健やかな育成を図る。 【目標数値】	市民課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	45,307,690		11,116,000	0	34,191,690	—	【担当課意見】 県の助成対象(就学前児童)に加え、市独自の施策として、小学6年生修了時まで拡大して助成を実施している。 【今後の見通し】 継続実施していく。
妊婦・乳児健康診査事業	H28	【概要】 妊娠中からの妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育を支援するため妊婦又は乳児若しくは幼児に対する健康診査等の事業を実施することにより、子育て支援対策の充実を図る。 【主な事業】 ・妊婦健康診査に対する補助(14回分)及び乳児健康診査受診券2回分等で1人当り107,100円分の受診券を交付する。 ・妊婦健康診査1回受診につき2,000円(上限24,000円)の奨励金を交付する。	妊娠早期である母子健康手帳の交付時に受診券を交付し、受診を促し、妊婦とあかちゃんの健康の保持増進に取り組んだ。 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】 妊婦健康診査交付枚数2,244枚/2,591枚(+347) 母子健康手帳交付者数 121人/148人(+27) 補助券平均使用枚数 12.4枚/11.9枚 妊婦支援費支給件数 130件	【目的】 補助券の適正利用を促し、妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育を促進する。 【目標数値】	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	13,063,376				13,063,376	—	【担当課意見】 妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育の支援に繋がった。 【今後の見通し】 妊婦とあかちゃんの健康の保持増進及び妊婦健康診査の受診を促進するため継続して実施する。
各種予防接種事業	H28	【概要】 伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防するために、予防接種法に基づき、定期予防接種を実施し、健康の保持・増進を図る。 【種類】ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、麻疹、風しん、日本脳炎、BCG、ヒブ、肺炎球菌、水痘	対象者に対する指導・助言・個人通知等で接種勧奨を行い、乳幼児の健康の保持増進に取り組んだ。 【H28年度主な予防接種の実績(H27年度実績との差)】 麻疹/風しん98.0%(+0.8%) 肺炎球菌102.0%(+8.8%) ヒブ103.1%(+10.2%) ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ110.2%(+14.2%)	【目標】 予防接種法に定められた定期予防接種を適正な時期に実施することにより、伝染のおそれがある疾病の発生・まん延を予防するとともに、小児の健康の保持・増進を図る。 【目標数値】 麻疹/風しん接種率等90%以上	健康福祉課	第3章 健やかで支えあう安心のまちづくりへの挑戦 第1節 医療の充実と健康づくりの推進	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	25,167,215				25,167,215	○	【担当課意見】 接種勧奨に努めた結果、未完了者の接種にもつながり、接種率の増加につながった。そして、疾病の発生予防及び子どもの健康の保持・増進につながっている。 【今後の見通し】 子どもの予防接種率を向上させるため、個人通知・個別指導等により接種勧奨を強化し、引き続き事業を推進していく。

基本目標別達成状況総括表

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
養育医療事業	H28	【概要】 出生時の体重が2,000g以下または身体の発育が未熟のまま出生し、養育医療を受ける必要のある子どもに対し、医療の給付を行い子どもの健康増進及び経済的負担の軽減を図る。	養育医療給付を行い、対象者の費用負担の軽減に努めた。 【H28年度実績(H27年実績との差)】 実人員3人(-3人) 延人員3件(-7)	【目的】 出生時の体重が2,000g以下または身体の発育が未熟のまま出生し、養育医療を受ける必要のある乳児(指定医が認めた乳児)に対し、医療の給付を行い、対象児の健康の保持・増進及び経済的負担の軽減を図る。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	359,323	158,546	79,273	42,230	79,274	—	【担当課意見】 対象者への養育医療給付を行ったことにより、対象児の健康増進及び医療費の経済的負担の軽減につながった。 【今後の見通し】 継続実施し、経済的負担の軽減及び子どもの健康増進の保持増進に取り組む。
子育て世代包括支援センター(ネウボラ)事業	H28	【概要】 妊娠期から子育て期にわたるまでの総合的相談支援を実施する。	相談室の改修工事、医療機関や子育て支援関係機関との連携の強化を図った。 【H28年度実績】 母子健康手帳交付時の相談・支援148件 妊産婦訪問23件 妊産婦相談71件 電話相談260件 支援計画の立案・実施0件	【目的】 子育てしやすい町の醸成につながるとともに子どもの健やかな成長につながる。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	4,352,264	1,450,754	1,450,754		1,450,756	—	【担当課意見】 創設初年度は、環境整備及び医療機関や子育て支援関係機関との連携の強化を重点的に図った。 【今後の見通し】 アンケートの結果、認知度が低いことが明らかとなったため継続して周知を図り、利用増進につなげる。また、支援ニーズの高い妊産婦は支援回数増加を図る等状況に応じた支援を行う。
妊婦健康診査支援事業	H28	【概要】 市内で妊婦健康診査事業を開始する病院に対し、施設整備及び運営補助を行う。	医療機関に対し、妊婦健康診査施設整備費の補助及び、妊婦健康診査運営費の補助をし、市は周知を図った。 【H28年度実績】 施設整備費 10,000,000円 運営費 840,000円 受診者数 6人 延べ 23回	【目的】 市内で妊婦健康診査を受診できることで、妊婦等が遠隔地に赴くことなく、定期的及び随時的な妊婦健康診査を受診し、医師のアドバイスを受けることができる。これにより、積極的な健康管理に取り組むことで、妊婦等の健康増進及び福利厚生に資する。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	10,840,000	0	0	0	10,840,000	—	【担当課意見】 創設初年度は、施設整備及び運営費の補助を医療機関に対して実施した。市は広報、チラシの配布等により、周知をはかった。 【今後の見通し】 継続して周知を図り、利用増進につなげる。
病児保育事業	H28	【概要】 保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに児童の健全な育成を図るため、病気の治療中であり保護者が勤務等の都合により家庭での保育が困難な場合に、専用施設において、看護師等が一時的に保育を行う。	米田小児科医院へ開設に伴う改修費等の補助金を交付し、保育室及び安静室等の病児保育の実施に向けて必要な施設整備を実施した。	【目的】 安心して子育てのできる環境を整備するため、新たに病児保育室を設置する者に対し、施設改修等の必要な補助を行う。	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	4,000,000	1,333,000	1,333,000		1,334,000	—	【担当課意見】 病児・病後児保育を実施することにより、子育て環境の充実につながっていく。 【今後の見通し】 受入体制を整え、事業の周知を図っていく。(5月23日に委託契約)
竹原西放課後児童クラブ整備事業	H28	【概要】 竹原西放課後児童クラブを1教室増設するための改修工事を行う。	余裕教室を児童クラブ室として改修するとともに、出入口のバリアフリー化等の工事を実施した。 (増設分の定員 35名) H29.5月末現在 第1教室:26名 第2教室:27名	【目的】 平成27年度から受入対象を6年生まで拡大したことに伴い利用児童数が増加したため、竹原西放課後児童クラブを増設する。	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	(3,371,760)					—	【担当課意見】 受入環境を整備したことにより、保護者の子育て・就労支援につながっている。 【今後の見通し】 引き続き、子どもが安心して過ごせる場として、安全面に配慮しながら子どもの健全な育成に努める。
吉名放課後児童クラブ整備事業	H28	【概要】 平成30年4月開校予定の小中一貫校整備に伴い、放課後児童クラブ利用者を受け入れるため、同校敷地内に新しく児童クラブ室を設置する。	児童クラブ建設工事 ・事業期間 平成28年度～平成29年度 ・進捗率 60% ・構造等 木造平屋建 ・定員 40名	【目的】 小中一貫校整備に伴い放課後児童クラブ利用者を受け入れるため、同校敷地内に新しく児童クラブ室を設置する。	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	14,344,281	9,562,000	2,390,000	1,900,000	492,281	—	【担当課意見】 平成30年4月開校に向けて予定通り工事を実施している。 【今後の見通し】 平成29年12月までに建設工事を完了させ、翌年4月開設に向け準備を進める。

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 ②学校教育の充実
柱 ひとの創生

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあつたの担当課意見等)	
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財			
学校ICT活用教育推進事業	H28	市内小中学校全校にタブレット型端末や授業・学習支援ソフトウェア等を導入し、電子黒板との連携によって、充実したICT活用教育環境の整備を行うものである。 また、市内小中学校にICT支援員を配置し、教員及び児童生徒のICT機器の活用・操作方法の習得の支援を行う。 これらの取組により、児童生徒の情報活用能力育成及び学力の定着向上を目指すものである。	・平成27年度に導入したタブレット型端末を活用した授業の定着と発展を図り、メディアセンターの導入やプログラミング教育の一部実施など、新しい取組にも繋がった。 ・ICT支援員2名を担当校制により配置し、事業期間合計で156日のICTに係る支援を実施した。また、タブレット型端末を活用した授業は、平成28年度調査で、調査期間10日間で小学校388時間、中学校124時間実施した。(平成27年度調査小学校361時間、中学校59時間実施。) 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】 ○ICT活用授業 週23時間/週28時間(+5時間) ○市内中学校進学率 88.5%/90.6%(+2.1%) ○HPを活用したPRの回数 6件/15件(+9件) ○公開研究会回数 1件/1件	【目標】 市内小中学校全校に整備されたタブレット型端末を電子黒板等と連携し、授業・学習支援ソフトウェア等の活用により児童生徒の学力向上を図る。 【目標数値】(H31年度までに) ・ICT活用授業各校週10時間以上 ・市内中学校への進学率93%以上 ・HP等を活用したPR10件以上 ・公開研究会年1回	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	21,276,432					21,276,432	△	【担当課意見】 すべての学校において、公開研究会でタブレット型端末を活用した授業実践が行われるなど、タブレット型端末の活用が定着し、授業支援システムや電子黒板との連携によって、質の高いICTを活用した教育が図られている。また、ICT支援員を配置したことにより、教員及び児童生徒のICT機器の操作方法の習得が進み、活用場面が広がった。 一方、「竹原市住みよき満足度アンケート調査」によると、竹原市の全ての小中学校で「ICT活用教育を推進していることを知っている」と回答した割合は17.7%となっており、ICT活用教育推進の取組や成果についての認知度が低く、市内中学校への進学率向上に十分つながっていない要因の一つと考えられる。今後も、各校の学校だよりや教育研究会、市の広報や「特色ある学校づくり報告会」等の場を通して、取組の内容や成果を広報する必要がある。 【今後の見通し】 小学校段階でのプログラミング教育の全校実施など、新しい取組も始まり、タブレット型端末を含めたICT機器を活用した更なる授業機会の増加が見込まれる。一方で、ICT支援員事業が終了など、学校をサポートする体制に不足が生じるため、より自立的な教員の指導力向上に向けた研修等の対応を充実させるものである。
外国語指導助手配置事業	H28	児童生徒の英語力向上と国際理解の深化及び教職員の英語指導における資質向上を図る。 ALT(外国語指導助手)を雇用し、小学校の外国語活動又は中学校の英語科の授業をチームティーチングで行う。	・市内幼稚園1園、小学校9校、中学校4校にALT(外国語指導助手)を4名配置し、児童生徒の英語力とコミュニケーション能力の向上や国際理解の充実を図った。 ・ALTとのチームティーチングを行うことを通して、小・中学校の外国語活動および英語教育の教員の指導力向上を推進した。	【目標】 ALTとのチームティーチングにより授業改善が図られ、教職員の指導力が向上し、児童生徒の英語力が向上する。	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	16,305,453					16,305,453	—	【担当課意見】 ALTとのチームティーチングで授業を行うことにより、アンケート調査で「外国人とコミュニケーションを図りたい」と答えた児童が75.9%、生徒が69.1%と、いずれも昨年度を上回るなど、児童生徒のコミュニケーション力や英語力の向上につながった。また、ALTとのチームティーチングで授業を行うことにより、指導する日本人教師が、クラスルーム・イングリッシュを使った授業を行ったり、ねらいに効果的に迫る活動を設定したりするなど、授業構成に工夫が見られるようになり、教員の指導力の向上につながった。 【今後の見通し】 ALT及び市内小中学校の外国語教育推進リーダーを対象とした研修会を開催し、外国語教育指導力の向上を図り、児童生徒の英語力向上と国際理解の一層の充実を進める。 ※クラスルームイングリッシュ・・・教師の掛け声やあいさつ、指示など、授業中に使われる英語
竹原っこ夢プロジェクト事業	H28	児童生徒が夢と希望をもち、将来に向けて自主的・主体的に生きていくための「生きる力」を育むことを目的とする。 児童生徒から、本市の地域資源をテーマとした夢や希望を募集し、その実現に向けて支援を行う。	・小学校2校、中学校1校において本事業を実施した。 【竹原西小学校】「学校にあるビオトープを復活させ、生き物が棲む自然豊かな学校にしたい」という児童の思いから、植生について講師から学んだり、ビオトープについて調べたりして、自分たちの手で生き物や植物が豊かに生きるビオトープ作りを行うことができた。 【仁賀小学校】「学校のお客様をおもてなしの心で迎えたい」「プログラミングでロボットを動かしてお客様をおもてなしたい」という思いから、「仁愛ロボット おもてなしプロジェクト」と銘打ち、仁賀小学校に来て下さった方々に手作りのロボットを使い、おもてなしの心で対応し、感謝の気持ちを伝えることができた。 【忠海中学校】大久野島にたくさんの外国人が訪れるようになったことをきっかけに、「忠海の魅力についても外国の方々に知ってほしい」という思いから、忠海の史跡や観光名所などについて調べ、英語版のパンフレットにまとめた。そのパンフレットを観光客へ配布したり、手作りの掲示板でお知らせしたりするなど、情報発信する活動に取り組むことができた。 【H27実績/H28実績】 ○実施校数 小学校 2校 / 2校 中学校 1校 / 1校	【目標】 児童生徒が、本市の地域資源に関する夢や希望を実現することを通して、郷土愛が育ち生きる力が育まれる。	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	884,489			884,489	0	—	【担当課意見】 どの学校の取組も、児童生徒が夢と希望を持ち、将来に向けて自主的・主体的に生きていくための「生きる力」を育むことにつながった。また、本市の地域資源をテーマとした夢や希望の実現を通して、郷土愛の育成にもつながることができた 【今後の見通し】 次年度は実施予定なし	
竹原市キャリア・スタート・ウィーク事業	H28	竹原市立中学校第2学年の生徒が市内の事業所で職場体験をすることを通して、望ましい勤労観、職業観の育成を図るとともに郷土愛を育むものである。	・市内約130の事業所において中学2年生182名が職場体験学習を行った。 【H27実績/H28実績】 ○体験者数 198名 / 182名	【目標】 職場体験を通して、竹原市立中学校第2学年の生徒に望ましい勤労観、職業観が育成される。	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	35,000					35,000	—	【担当課意見】 職場体験活動を実施したことにより、生徒の勤労観・職業観の育成が図られ、事後アンケートでは「働く意義は、自分のためだけでなく、自らみんなのために行動すること」と答えるなど、進路意識・目的意識が高まったと考えられる。また、「私は自分が住んでいる町が好き」と答えた生徒が94%であり、生徒の郷土愛を醸成することもできたと考えられる。 【今後の見通し】 小学校から中学校のキャリア教育の系統性を明確にするとともに、中学校での職場体験活動の事前・事後指導の充実を図る。

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 柱 ひとの創生 ③観光の振興

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
伝統的建造物群保存地区保存修理・修景事業	H28	竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区を保存するため、保存地区内における建造物等の修理・修景を実施する。	保存修理事業を4件実施した。(大澤家、岩本家、桐谷家、西方寺石段)	【目標】重要伝統的建造物群保存地区内建造物等の保存 【目標数値】	文化生涯学習課	第4章 竹原のもつ住みよい環境づくりへの挑戦 第1節 歴史文化の保存・継承・活用	チャレンジプロジェクト4 町並み保存地区の更なる活用・魅力づくり	13,842,378	6,897,000	1,711,000	0	5,234,378	—	【担当課意見】当初予定していた3件を実施した事により、対象家屋の修理ができたことに加え、火災により被害を受けた工作物1件を追加で実施し、保存地区内の景観を向上できた。 【今後の見通し】平成29年度は2件実施することとしており、今後も計画的に実施する。
文化財管理事業	H28	・文化財の維持管理及び文化4施設：森川邸・松阪邸・光本邸・歴史民俗資料館の指定管理者により管理する。 ・吉井家住宅管理及びその他文化財を管理する。	・指定文化財管理および整備委託 ・文化施設管理委託 ・庭木管理業務委託 ・町並み保存地区内の白蟻駆除委託 ・吉井家住宅調査研究委託等 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】 104,775人/57,222人(△47,553人)	【目標】文化財及び文化施設の適切な管理を行う。 【目標数値】市公開重要文化財利用者年間31,000人以上	文化生涯学習課	第4章 竹原のもつ住みよい環境づくりへの挑戦 第1節 歴史文化の保存・継承・活用	チャレンジプロジェクト4 町並み保存地区の更なる活用・魅力づくり	18,853,109	0	0	0	18,853,109	○	【担当課意見】有識者の意見を参考に行なった業務(吉井家住宅調査)等を実施した事により、文化施設の適正な管理が実行できた。 【今後の見通し】吉井家住宅の調査結果等をもとに、今後の文化財及び文化施設の整備・活用については有識者の意見を参考に、文化施設の管理については利用状況を把握しながら事業を進めて行く。

基本目標別達成状況総括表

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
(加速化交付金 第1次) ・観光ポータルサイト(ホームページ)のリニューアル事業 ・台湾からの個人旅行者誘致促進に係るプロモーション事業 ・現地を訪れたような疑似体験ができるバーチャルリアリティ技術を活用した観光情報発信事業	H28	・観光ポータルサイトをリニューアル・多言語化する。 ・台湾人観光客誘客プロモーションをはじめ、マナー研修、コミュニケーションツールの開発など受入体制の整備等の取り組みを連携して実施する。 ・バーチャルリアリティ技術を活用した多言語対応コンテンツを構築する。	・観光ポータルサイトをリニューアル・多言語(2か国語)化した。 ・台湾現地での観光プロモーション、台湾でのテレビ番組放映、受入体制整備(2市周遊ガイドブック3か国語)の作成、指差し会話表(5か国語)、インバウンドマナー研修、手ぶら観光、定額タクシー運行等を行った。 ・現地を訪れたような疑似体験ができるバーチャルリアリティをWEBサイト上で公開及びサイネージを市内観光施設に設置した。	【目標】 情報発信力を強化し、観光地の魅力を更にPRするとともに、外国人観光客の増加、国際観光の推進及び広域周遊促進による地域活性化を実現させる。 【目標数値】 平成29年12月までに本市を訪れる外国人観光客数:7,000人	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	18,180,228	18,180,228			0	○	【担当課意見】 ポータルサイトの更新・多言語化、最新技術(VR)の活用、東広島市と連携したPRなど、情報発信力を強化したことにより、外国人をはじめとした観光客へ情報が以前より行き届くようになった。 【今後の見通し】 グーグルアナリティクスを活用しホームページのアクセス件数等を解析する他、台湾現地でのアンケート結果などを分析し、成果・課題を踏まえ、さらなる効果的な情報発信及び広域観光ルートの形成を推進する。
(加速化交付金 第2次) ・回遊、消費を多言語で促す回遊性向上事業 ・異文化交流を促す古民家活用交流事業 ・民間ノウハウを活用した消費喚起促進事業 ・官民連携組織設置や活動を支援するまちなか賑わい創出事業	H28	・外国人観光客等を対象とした散策マップ、ポスター、プロモーションビデオを作成する。 ・Tagmentの多言語化、Hiroshima Free Wi-Fiと Tagment周知・加入を促進するチラシを作成し、観光施設等に配布した。 ・回遊性向上事業 ・観光客の消費喚起を促す情報を多言語等で発信するPV、ポスター及びパンフの作成 ・近年急増している大久野島への外国人観光客等に市内への回遊(忠海港～忠海駅～竹原駅前～町並み保存地区)を促し、宿泊・飲食・買い物などの消費を喚起する仕掛けを講じることで、観光消費を伴う賑わいを創出する。	・竹原市観光ガイドブック(5か国語)、ポスター(2か国語)、プロモーションビデオ(英語併記)を作成し、WEBサイト上で発信及び観光施設等に設置した。 ・Tagmentの多言語化、Hiroshima Free Wi-Fiと Tagment周知・加入を促進するチラシを作成し、観光施設等に配布した。 ・回遊性向上事業 ・観光客の消費喚起を促す情報を多言語等で発信するPV、ポスター及びパンフの作成 ・古民家活用交流助成事業 ・民間が行う古民家を活用した異文化交流の取組を支援するため、古民家の改修・交流事業の経費の一部を助成 ・消費喚起促進事業 ・民間から観光客ニーズにマッチした消費喚起を促す企画提案を募集し、民間の自立的・自主性を高める企画提案を採択 ・まちなか賑わい創出推進事業 ・消費喚起事業等の継続に向けた協議会を設置し、まちなかの賑わい創出のための実証事業の実施	【目標】 急増する大久野島への外国人観光客を町並み保存地区への回遊を促すとともに、観光消費額を増加させる。 【目標数値】 ・平成29年12月までに町並み保存地区を訪れる外国人観光客数 300人 ・駅前商店街の売上増加店舗数 H26年度比10%増	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第3節 商工業の振興 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	43,799,824	43,799,824			0	○	【担当課意見】 民間の企画提案による消費喚起を実施したことにより、予想以上にマスコミに取り上げられるとともに、商店街を中心とした店舗が連携し、消費の受け皿づくりができた。 【今後の見通し】 観光消費戦略プランに記載された取組について、関係機関と協議しながら優先順位が高いものから実施していく。
地域活性化イベント事業	H28	竹原の自然や歴史文化を感じることのできる機会を観光客に提供すること等を目的に、桜まつり(4月)、竹まつり(5月)、夏まつり(8月)、憧憬の路(10月)を開催する。	桜まつり(4月)竹まつり(5月)、夏まつり(8月)、憧憬の路(10月)を開催した。 (平成28年度来場者数) ○桜まつり 15,000人(前年比+3,000人) ○竹まつり 22,000人(前年比△8,000人) ○憧憬の路 30,000人(前年比△5,000人)	【目標】 各種イベントを通じて竹原の自然や歴史文化を感じることのできる機会を観光客に提供する。 【目標数値】	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	5,250,000				5,250,000	—	【担当課意見】 H27はマッサン効果により多くの観光客が訪れたことから、竹まつり及び憧憬の路は過去最高の集客数となった。H28はH26との観光客数の比較で憧憬の路は横ばい、桜まつり及び竹まつりは上回った。 【今後の見通し】 イベント内容を見直し、入込観光客の増加につなげる。
民間事業者等のノウハウを活用した誘客強化事業	H28	新たな誘客及び相互周遊を促進するため、東広島・呉自動車道を活用した沿線市との連携事業を実施する。	東広島・呉自動車道の沿線市と連携し、お酒をテーマに3市を周遊させるためのストーリー作りやプロモーションを実施。また、シャトルバスの実証運行やモニターツアーの実施。 ○メディアを活用したプロモーション ローカルタレント4名、県内各種メディア ○周遊バスツアー 3コースで計12回実施 参加者467人 ○平成29年2月3日～3月20日開催 広島酒処周遊録 参加者226件応募あり	【目標】 東広島・呉自動車道沿線における広域的な周遊観光を促進する。 【目標数値】	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	2,000,000		1,000,000		1,000,000	—	【担当課意見】 H27はイベント開催や共同による情報発信を行ったが、メイン事業で各市ごとにグッズを配布したため広域的なイメージが薄かった。H28はメイン事業の内容を3市を周遊することでグッズを配布したことにより広域的な連携強化につながった。 【今後の見通し】 アンケート結果を検証し、成果・課題を踏まえ、広域観光ルートの形成を推進する。 【その他特記事項】 県事業(参画市:竹原市、東広島市、呉市)
道の駅管理事業	H28	道路の利用者に対し良好な休憩場所を提供し、観光情報を含む地域情報の発信及び地元産品の販売による地域の活性化に寄与するとともに、地域の防災拠点として市民の福祉の向上を図ることを目的に道の駅たけはらの管理運営を行う。	平成28年度においては、地域情報の発信、地元産品の販売など通常の指定管理業務に加え、H27で自主事業として実施したもちつき大会やカラオケ大会、生産者との共同視察研修に加え、ハロウィン環境整備、湯豆腐フェスなど新たな取り組みを実施した。	【目標】 道路の利用者に対し良好な休憩場所を提供し、地域情報の発信及び地元産品の販売による地域の活性化に寄与するとともに、地域の防災拠点として市民の福祉の向上を図る。 【目標数値】	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	15,509,693				15,509,693	—	【担当課意見】 H27は「マッサン」の終了等の影響により施設利用者数について前年比で減少しており、その結果売上額も減少している。H28はH27と比較し横ばいで推移。 【今後の見通し】 ○農産物や加工品、レストラン業務など全体としての売上向上を目指す。 ○新規の顧客層の開拓に努める。

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 柱 ひとの創生 ④情報発信力の強化

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
広報事業	H28	公正で開かれた市政を推進するとともに、市民の市政に対する理解やまちづくりへの意識啓発を図り、本市等が行う各施策の効果を更に高めるため、広報紙並びにホームページやツイッター・フェイスブックなど様々な媒体での効果的な情報発信を行う。	月に1回、広報紙(12,000部/月)を自治会加入者へ各戸配布し、自治会未加入世帯も広報紙を手に入れることができるように市庁舎や支所・出張所、道の駅やJR竹原駅など市内施設へ設置している。 また、ホームページやツイッター・フェイスブックなど様々な媒体も活用し、随時情報を更新・発信した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】 ○報道件数 55件/61件(+6件)/68件(+7件) ○HP年間アクセス数 280,427件/342,041件(+61,614件)/250,121件(-91,921件) ○フェイスブック「いいね」件数 1,251件/1,679件(+428件)/1,957件(+278件) ○ツイッター「フォロワー」数 2,885件/3,495件(+610件)/4,165件(+670件)	【目標】 様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、市の施策や事業等を周知し、各種施策の効果を高める。 【目標数値】(H31年度までに) 報道件数 80件 HPアクセス数 300,000件/年 フェイスブックいいね数 1,800件 ツイッターフォロワー数 4,200件	企画政策課	5章 安全でしっかりとした都市基盤づくりへの挑戦 第6節 情報通信基盤の整備・活用 第6章 みんなで築くまちづくりへの挑戦 第3節 計画的で効率的な開かれた行政運営の推進 第4節 広域的な交流・連携の推進		8,011,411				8,011,411	△	【担当課意見】 定期的に発行する広報紙に加え、ホームページ等の各種媒体などで最新情報を随時発信した結果、いいね数、フォロワー数等は概ね増加しているがマッサンやたまゆらの終了に伴ってか、HPアクセス件数は昨年度と比較して減少した。 【今後の見通し】 今後についても各事業担当部署と連携しながら、様々な媒体を活用し、市民ニーズに合う情報発信ができるよう取り組む。また、HPについては、市民がより興味を持ってもらえるよう、子育て情報や各種観光イベントなどを掲載する。
職員出前講座事業	H28	公正で開かれた市政を推進していくため、また、市民の市政に対する理解を深め、まちづくりへの意識啓発を図るとともに、市民の要望及び意見を幅広く市政に反映させ、市民と行政との協働によるまちづくりを推進するため、市が行っている事業等について、市民等が構成する団体から申請があった場合、集会、学習会等に市職員を派遣し、説明及び懇談会を行う。	4月に出前講座メニューの見直しを行い、広報5月号及び市ホームページで今年度出前講座メニューを発信し、申請のあったものについて説明会等を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】 ○出前講座実施件数 37件/55件(+18)/68件(+13) ※H27はマイナンバー説明会を含む。	【目標】 出前講座等の説明会で直に市民へ施策等の説明を行うことで、市民の市政に対する理解を深め、市民の協働のまちづくりへの意識を高める。 【目標数値】	企画政策課	第6章 みんなで築くまちづくりへの挑戦 第3節 計画的で効率的な開かれた行政運営の推進		0				0	—	【担当課意見】 ごみ袋の有料化が実施されたため、ごみの分別等に関する出前講座の実施件数が大幅に増加した(H26年度1件→H28年度35件)。健康やごみの分別など市民の生活に直結するテーマの講座への依頼が多くなっているが、一定には市民の市政に対する理解を深めることにつながっていると考える。 【今後の見通し】 今後についても、各事業担当部署と連携しながら、説明会等の積極的な実施に努める。また、平成29年度は公共施設等総合管理計画についてのメニューを加えており、新しい施策についても理解を深める機会を提供していく。